

諸戸徳成邸と北勢線

桑高同窓会長 西羽 晃

11月2日に桑高同窓会幹事総会が行われた。挨拶で何を話そうかと、昨年の総会からあったことを考えながら家を出た。諸戸徳成邸の横を通って、この1年間に諸戸徳成邸の保存のために活動したことを思い出した。今年の年明け早々に準備会を開き、2月9日に「諸戸徳成邸の保存・活用を考える会」を立ち上げた。4月19日には「諸戸徳成邸の保存・活用を考える集会」を開催した。この過程で従来からの友人との絆を深め、新しい知人を得ることもできた。6月1日は桑名市教育委員会主催のシンポジウムで「桑名の近代化を進めた商人」と題して、私は話した。6月8日には徳成ウォークを開催した。夏の暑い時期は一服したが、9月23日と28日に諸戸徳成邸の草刈り・清掃作業を行った。まだ暑さの残る時期だったが、2日間とも腰も痛まらずに午前・午後とも参加出来た。



諸戸徳成邸の紅葉
(2013年12月1日)



北勢線の百周年記念電車
三交時代のツートンカラー(左)と
百周年ヘッドマーク付(右)

諸戸徳成邸を通り越して、桑高からの坂道を下っていくと、前方に北勢線の黄色い電車が見えた。そうだ、今年は北勢線開業百周年でいくつかの行事に参加した。4月1日には『中日新聞』に私のインタビューが掲載され、北勢線に対する「想い」を書いてもらった。4月6日には「北勢線の魅力を探る会」が百周年記念ウォークと集会を行い、諸戸徳成邸の見学も行った。集会では「北勢線百周年」のスライドを私が編集し、ラストシーンで「これまでも、これからも 走り続ける北勢線 頼りになる北勢線」のメッセージを掲げた。10月4日にも北勢線ウォークを実施した。

総会の挨拶で諸戸徳成邸と北勢線の話をして、さらに当日の朝日新聞で特別編集委員の山中季広さんが随想「日曜に想う 攻防サルの惑星 ヒトの惑星」を書いておられることにも触れた。人は猿の害を云うけれど、猿にとっては人が害を及ぼしていると感じているに違いない。自分中心の見方だけでなく、相手からの見方も大切であることを話した。山中氏は昭和57年桑高卒の同窓生である。

諸戸徳成邸は築90年ほどであるが、近年は空き家になっていて、痛みも激しい。所有者は桑名市に買取りを希望しているが、桑名市は難色を示している。文化財的価値は勿論だが、観光面でも桑名の品格を高める存在だと思うし、環境・防災・自然観察の教育的教材としても貴重な「本物」であろう。

11月29日には清掃と紅葉狩りを予定したが、当日は夜来の雨が11時すぎにやっと上がったので、落ち葉の山を少し片付けた。紅葉の下で持参の昼食を食べる予定だったが、地面が濡れているので、食事は別の場所に移って、諸戸徳成邸の保存と活用のために、何をすれば良いかと話し合った。

北勢線は経営の三岐鉄道が努力して、乗客は徐々に増えているのは頼もしいが、毎年の経常赤字はやはり続いている。これまで23回続けてきた北勢線ウォークは、今後も年2回のペースで続けて、沿線の魅力を再発見して、「頼りになる北勢線」を支援して行きたい。

四日市の近鉄内部・八王子線の存続が決まって、来年から「四日市あすなろ鉄道」として独立することになった。北勢線と今後提携して行きたいとの話もある。11月13日に、四日市市日永公民館で、北勢線の歴史について、私が話した。双方とも現在では希少な存在（或る人の表現では絶滅危惧種）であるナローゲイジ（超狭軌）の線路である。このナローゲイジを守るべく、三岐鉄道北勢線と四日市あすなろ鉄道が共同して登録文化財を目指すことを働きかけたい。